朝妻街道　［近 江 町］

東国から続く旧中山道は、北近江の柏原宿・醒井宿・を通り、現在の米原町番場を抜け、彦根市鳥居本へと山間部の道中を通りますが、途中で分岐して天野川に沿いながら、琵琶湖に面した朝妻湊や米原港へと通じる街道が存在したとされています。

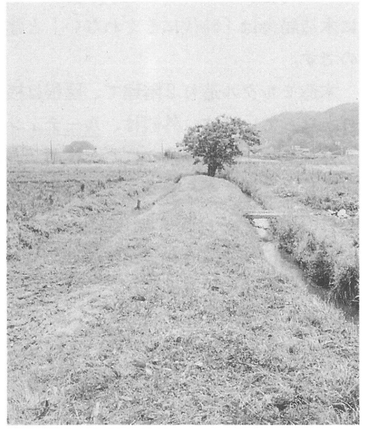
「朝妻街道」と呼ばれるこの街道は、近江町の最南端「寺倉」集落の南寄りを抜け、その西隣の「西円寺」集落の北寄りを通り、丘陵を越えて「岩脇」の岩屋善光堂の下を抜けて琵琶湖岸の港へと通じていたようです。

朝妻街道は、ごく近年まで、国道21号線に沿った田園地帯の中に、その残映を留めていましたが、近年の耕地整理（ほ場整備）によって、その名残りは完全に消失してしまいました。

これまでに、朝妻街道に隣接した遺跡の発掘調査が幾度か行われています。このうち寺倉遺跡では、街道に面した建物遺構が検出され、西円寺遺跡では、街道に沿った平野部の開発遺構と、道路側溝が発見されています。

寺倉遺跡では、室町時代の大型陶磁器や土師器などの生活資料が出土しており、中世期における朝妻街道の存在を推測させる結果となっています。また西円寺遺跡では、平安時代の末頃に周辺の開発が活発化し、それまで菜種川の氾濫原として不毛であった地域が開かれていきました。発見された朝妻街道の道路側溝からは、街道の使われた年代を示す資料は発見されていませんが、周辺の開発と街道の整備年代の追求が今後の課題となりそうです。

（宮崎幹也）



近年まで姿の見られた朝妻街道

企画展 みち・ひと・まち－坂田郡の街道・宿場展－へいらっしゃい

東国・西国・北国の接点として、古くより交通の要衝であった坂田郡。特に近世にいたって街道が整備され、その宿場町として一層の賑わいをみせます。

そこで、今回坂田郡に豊かな文化をもたらした街道・宿場にスポットを当て、坂田郡の交通と文化を知っていただこうと 企画展 みち・ひと・まち －坂田郡の街道・宿場展－ を開催します。皆様のお越しをお待ちしています。

開催期間　平成10年10月18日（日）から
平成10年11月23日（祝）まで
開催場所　柏原宿歴史館
主　　催　柏原宿歴史館
坂田郡社会教育研究会（文化財部会）
内　　容　坂田郡内の街道・宿場関係の展示
関連行事　講 演 会
11月7日（土）　午後1時30分～
● 演題　琉球国使節の渡来について
● 講師　横 山　　學 氏
（ノートルダム清心女子大学教授）
郡内探訪ツアー
11月8日（日）　10：00～15：00
● 往復ハガキにて10月20日までにお申し込みください。 入館料実費
● 定員75人：定員超過なら抽選

お問合せ　＊柏原宿歴史館
〒521-0202
滋賀県坂田郡山東町柏原 2101
TEL•FAX 0749-57-8020
＊山東町教育委員会　生涯学習課
〒521-0292
滋賀県坂田郡山東町長岡 1206
TEL 0749-55-2040
FAX 0749-55-2406

坂田郡文化財ニュース
佐　加　太　第９号
発　行　平成10年9月20日
編　集　坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局　〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照 37
伊吹町教育委員会生涯学習課
TEL 0749（58）1121
印　刷　立 木 印 刷

第　9　号
— 街道特集号 —
1998年9月20日
滋賀県坂田郡社会教育研究会
文　化　財　部　会

佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

柏原宿をひもとく　［山 東 町］

柏原宿のすがた　柏原宿は中山道67宿の一つで、江戸より数えて60番目の宿場です。いつ頃から宿場として成立していたかは不明ですが、江戸初期の慶長年間から機能していたと考えられます。

天保14年（1843）の記録によれば、宿場の長さは13町（約1.4㎞）で、これは近江国の中山道で最も長く、中山道全宿で10番目となっています。また、人口1,468人、戸数344軒、そして宿高2,441石と中山道中４番目の規模で大きな宿場でした。その他、旅籠は22軒を数え大いに賑わいました。

本陣・脇本陣　大名や幕府役人などが休泊する施設として本陣・脇本陣があります。柏原宿にも宿場のほぼ中央に各々１軒ずつありました。現在、本陣・脇本陣とも街道筋にその姿を留めていませんが、残されている絵図では間口26間をはかり、街道に３つの門を持つ大規模な建物であったようです。現在、本陣建物の一部と表門が岐阜県に残っています。

柏原御殿（御茶屋御殿）　柏原宿の西に「御茶屋」と呼ばれる一帯があり、かつて柏原御殿（御茶屋御殿）と呼ばれる建物がありました。徳川家康・秀忠は京都へ上る時、在地の西村氏の屋敷を利用していましたが、家光の時に御殿を建立。以後、元禄２年（1689）に廃止されるまでの66年間、将軍休泊のための御殿として機能していました。今では台所辺りに井戸跡が残り、近くの勝専寺の山門が裏門を移したと伝えるばかりです。

柏原宿の町並み

伊吹艾　近江の秀峰である伊吹山は古くから薬草の宝庫として知られ、もぐさの原料となる良質のよもぎが産することから、柏原ではこの伊吹艾を街道名物として売っていました。全盛期には10軒を越える店が軒を並べていましたが、現在では伊吹艾本舗「亀屋佐京」１軒を残すだけとなりました。この「亀屋佐京」は、広重の浮世絵「木曽街道六十九次」にも描かれています。特に６代目松浦七兵衛は著名で、江戸吉原の遊女に「江州柏原伊吹山のふもと亀屋佐京の切りもぐさ」と歌わせて名を広めるなど、現代のコマーシャルソングの元祖といわれています。

このように賑わいをみせた柏原宿をメインテーマとした **柏原宿歴史館** が、平成10年４月10日にオープンしました。柏原宿に関する絵図や古文書、艾の資料、町並みの模型などにより柏原宿を紹介しています。皆様のお越しをお待ちしています。

（桂田峰男）

開館時間　午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）
休 館 日　月曜日、祝日の翌日、年末年始
お問合せ　柏原宿歴史館
TEL（0749）57-8020

柏原宿歴史館

坂田郡内の街道案内

坂田郡は、東国・西国・北国の分岐点であり、また、近江における東の玄関口として古くより交通の要衝でした。このことは近世においても多くの街道が整備され、宿場が設けられた事からもわかります。

中山道　中山道67宿の内、郡内には近江最初の宿場であった柏原宿（山東町）、醒井宿・番場宿（米原町）が設けられました。柏原宿は、町並みが近江国の中山道では最も長く、広重の浮世絵に描かれた伊吹艾亀屋佐京の建物が現存しています。醒井宿は、地蔵川の清流が宿内を流れ、「三水四石」の名水・名石が『木曽街道名所図会』に描かれています。番場宿は、米原湊との通行で賑わいました。

北国街道　北国街道は、中山道鳥居本宿から分かれ、米原宿（米原町）、近江町を通って北陸へと北上します。米原宿は、米原湊を持つ湖上交通の要地としても栄えました。

北国脇往還　北国脇往還は、中山道関ヶ原宿から分岐し北陸へ通ずる街道で、藤川宿・春照宿（伊吹町）を経て、木之本で北国街道と合流します。藤川宿は、本陣・問屋を勤めた建物が現存しています。春照宿は、長浜へ向かう分岐点に立派な道標が立っています。

登録文化財　旧醒井郵便局局舎

［米 原 町］

ＪＲ醒ヶ井駅から醒井大橋に至る大正通りを歩くと、左手にモダンな洋風の２階建ての建物が目に写ります。これが旧醒井郵便局局舎です。

この局舎はヴォーリズ建築事務所の設計で、昭和９年に木造局舎は「時代にそぐわない」と建て替えられたものです。

木造モルタル造り２階建て、屋根は桟瓦葺きの寄棟造りとなっています。外観は、ルーティングのついた角柱、アカンサス文様を浮彫りにした柱頭、三段に張り出した軒蛇腹などネオクラシジズムを簡略化した様式にまとめられています。

完成時には郵政省から模範局舎として紹介されたため、全国から郵便局長さんたちが建て替えの参考にと見に訪れたそうです。

今般、所有者のご好意により、保存していただけることとなり、去る４月21日、国の文化財保護審議会において、登録文化財として登録するよう文部大臣に答申されました。

これを受けて町教育委員会では来年度より修理にとりかかり、修理後は資料館等の社会教育施設として一般に公開する予定です。ご期待下さい。

米原町醒井は中山道の宿場町の面影を随所に残し、町並みに添って天然のミネラルウォーター地蔵川が流れる美しい町並みです。宿場町に建つ洋館は不思議にも町並みに溶けこんでいます。　（中井　均）

旧醒井郵便局局舎全景

北国脇往還　藤川宿・春照宿

［伊 吹 町］

中山道関ヶ原宿から分岐し伊吹町を経由して北陸へ通じる街道は、木之本宿で米原方面から北上してきた北国街道に合流します。この街道は東海地方と北陸地方を最短距離で結ぶため、古くから盛んに利用されていたようです。この街道は北国脇往還（ほっこくわきおうかん）と呼ばれています。「脇往還」とは五街道以外の主要街道を指し、機能的には五街道と変わらず、一里塚や並木、高札場（こうさつば）があり、人馬継立が行われ、大名行列も多く通過したことから、本陣・脇本陣が設けられ、助郷（すけごう）も指定されていました。

さて、脇往還の呼称は明治以降のもので、江戸時代の『中山道分間延絵図』には「北国往還」、藤川林家文書中には「北国海道」という記述が多く、道標には「北国道」「越前道」「木之本道」が用いられています。

この街道には玉（関ヶ原町）、藤川・春照（すいじょう）（伊吹町）、伊部・郡上（ぐじょう）（湖北町）の宿場がありました。藤川宿は、本陣・問屋を兼ねた林家と脇本陣、江戸屋、長浜屋、若狭屋などの旅籠（はたご）、伝馬（てんま）10疋があり、下り（関ヶ原）荷物を取り扱う片道継立ての宿場でした。春照宿は本陣１軒、脇本陣２軒をはじめ、北国屋・若狭屋・亀屋・角屋などの旅籠や茶店が軒を連ね、名物の伊吹もぐさや伊吹大根が売られていました。また、春照宿は長浜への分岐点で、長浜湊（みなと）から京都・大阪方面へ向かう荷物も往来しました。

福井・鯖江・丸岡・大野・勝山・小浜の北陸諸藩は、木之本から脇往還を経て関ヶ原で中山道に出、垂井宿から美濃路を南下して東海道熱田宮宿に出るコースで参勤交代を行いました。朽木・大溝の湖西の大名家や、時に加賀前田藩も利用しています。

（高橋順之）

春照宿道標